

Q社の製品Aの年間販売量(第1期)にもとづく損益分岐点分析

出所: 本間健也『損益分岐点が見える本』日本実業出版社、1985年、37頁。

販売量	個	20,000		
売上高	千円	70,000	= 単価3.5 × 販売量	100.0%
変動費	千円	46,000	÷ 販売量 = 2.3: 単位変動費	65.7%
限界利益	千円	24,000		34.3%
固定費	千円	18,000	÷ 販売量 = 0.9: 単位固定費	25.7%
利益	千円	6,000	÷ 販売量 = 0.3: 単位利益	8.6%

損益分岐点	52,500	
損益分岐点販売量	15,000	= 損益分岐点 / 単価
損益分岐点比率	75.0%	
経営安全率	25.0%	

◎固定費の内訳

生産能力(個)/年	22,000	> 20000	稼働率 = 90.9%
設備投資	50,000		
耐用年数	5		
減価償却費(年間、定額法)	10,000		
労働者/人	2		
賃金/人、年	4,000		
賃金(年)	8,000		
固定費	18,000		

◎単価の計算

単位減価償却費	0.500	= 減価償却費 / 販売量
単位賃金	0.400	= 賃金(年) / 販売量
単位固定費	0.900	
原材料費	46,000	: 20000個への必要量
単位変動費	2.300	= 原材料費 / 販売量
単位費用	3.200	
単位利益	0.300	: 設定価格の利潤
単価	3.500	
単位利益率	8.6%	

◎フル稼働時の損益分岐点と売上高利益率

売上高	77,000	= 単価3.5 × 22000
固定費	18,000	上記
変動費	50,600	= 単位変動費 × 22000
利益	8,400	
売上高利益率	10.9%	> 8.6%
損益分岐点	52,500	
損益分岐点比率	68.2%	

◎投資回収計画

固定資本/設備投資	50,000.0	耐用年数5年
流動資本/賃金(年)	666.7	回転数 = 12
流動資本/原材料費	2,300.0	回転数 = 20
総投資額	52,966.7	
利益計画1(5年)	42,000.0	フル稼働が続いたとき
総投資利益率	79.3%	
利益計画2(5年)	30000.0	販売量20000が続いたとき
総投資利益率	56.6%	